

2020年5月23日(土)コロナの感染防止のため、各自、自宅等で受講する形でWeb「これからの福祉 障がい者の生活支援について」講座を開きました。受講者の感想は下記の通り。参加者は約19名。

(福祉現場の職員 Kさん)

リモート研修は3回目です。アクセス先とパスワードを早めに頂けるとありがたいです。

初めての時は、早めに連絡があり、慣れない人に接続の練習がありました。

練習の時に、参加者は発言するとき以外は〈ミュート〉にするようにと言われました。参加者さんの部屋の音や咳払いなども遮断出来ていいと思います。

チャットがあるのが良かったです。

今後も色々学びたいと思っています。今日は本当に有難うございました。どうぞ宜しくお願いします。

(追伸):私が今必要性を一番感じているのがコミュニケーション手段です。

発語やコミュニケーションが苦手な知的障がい者さん自閉症さんの気持ちをもっと知りたいからです。

で、PECSなどの音声コミュニケーションツール(タブレット)を持ってひとりで買物やお出かけをされている人が居ます。来月からPECS、ABAなどを学びたいと考えています。耳の不自由な方でも利用されておられるのでしょうか？

(聴覚障害学生 Kさん)

福祉や障がい者の生活支援はどのような現状に置かれているのかを詳しく知る良い機会になったと思います。

まだまだ課題が多く、解決すべきこともあり、色々と考えさせられました。

障がい者当事者の声を上げるだけでなく、他の人も積極的に上げていくことも必要だと思います。今後、障がい者と共生できる社会になっていくことを願いたいと思ってます。

以上です。よろしくお願い致します。

(手話通訳者さん)

お疲れさまでした。

手話通訳ですが、途中で雑音(資料をめくる音やマウスのクリック音)が入って聞こえにくいときがありました。

2回目からは音量を上げて聞くようにしましたが、やはり時々聞こえにくかったです。要約筆記者さんはちゃんと聞こえていたのでしょうか？私の方の機械の問題かもしれません・・・

次回開催される時に手話通訳を付けるのであれば、参加者のマイクはオフにして、講師の話だけが聞こえるようにしていただいた方が良いと思いました。

今日は聞き取れた範囲では通訳しましたが、わかりにくかったかもしれません。

(要約筆記者さんたち)

ソフトを使いこなす練習はもちろんですが、現場での、要約筆記者・主催者・利用者の連絡の取り方などの課題も見えてきました。

<反省点>

●主催者・利用者側に関して

・要約筆記者と講演者の連絡がしにくかった。主催者が入室するまで時間がかかってしまった。最初は誰かがビデオオンにしてやり取りした方が確実かもしれない。

要約筆記さんと(主催者・利用者が)呼べば、ビデオオンにするなどした方が講演者は安心か。

・聴覚障害者は、IPTalk を見ているのと変わらない様子で、使いやすかったようでホッとした。

・聴覚障害者に目立ったトラブルがなかった。ブレイクアウトルームで ZOOM の通信が悪くなったシーンがあった程度。入力者はフォローしあえたが、利用者側にトラブルが頻発したら大変そう。

・聴覚障害者がコメントを公開チャットに書いて知らせてくれたが、講師は気付いていないときもあった。

公開チャットをもっと活用したほうがいいのかもわからない。

●captiOnline

・前日までに、captiOnline のリモート練習会を複数回したものの、マニュアルも少なく、手探り状態。

お互いに情報交換しながら各自で習得。

●チームワーク

・複数のソフトを立ち上げるため、当日一番心配されたのは通信状況。トラブル時はすぐに交代できるように、それぞれ待機した中でスタート。

・連絡窓と LINE でのやり取り、かなり良かった。(あらかじめ LINE グループをつくり、やり取りした)

反省点は多々ありますが、「ステイホーム」がなかったら、このような体験はできなかったかもしれません。

いろいろな可能性を感じることができ、皆さん大きな収穫になったと思います。勉強会に感謝。